訪

六年

画数 11
筆順 訁訪訪
オン ホウ
クン おとず＝れる・たず＝ねる

成り立ち

訪

〝方角〟の意味の〝方（2年226）〟と、〝言〟とを組み合わせて作った字です。

「あっちの方にも言葉をかけ、こっちの方にも言葉をかける」という意味の字です。「方々を〝たずねる〟」ことを表した字です。

〝たずねる〟という言葉は、「家を〝おとずれる〟」という意味〔例訪問、来訪、歴訪、訪客〕の使い方と、「さがし求める」という意味〔例探訪、訪求、訪道〕の使い方とあります。

使い方

▽わたしは友だちと先生のお宅を訪問しました。先生が「来たい人は遊びにいらっしゃい」とおっしゃったからです。先生は色々な話をして、本なども見せて下さいました。とても楽しい訪問でした。

▽ぼくのおじいちゃんは、若い頃、世界各地を歴訪したそうです。アメリカやイギリスにも行きましたし、アフリカの奥地へも行ったことがあるそうです。ぼくも大人になったら、世界旅行をしたいと思います。

熟語例

▽訪問（人を訪ねること。）
▽来訪（訪ねて来ること。「今日は、めずらしいお客様が来訪した」などというふうに、つかいます。）
▽歴訪（色々な土地や人々を、次から次へと訪れること。）
▽訪客（訪れて来た客。「今日は、何人もの訪客があった」などというふうに、つかいます。）
▽探訪（社会のできごと、ようすなどを探りに訪れること。「夜の銀座を探訪した」などというふうに、つかいます。）

亡

六年

画数 3
筆順 亠亡
オン ボウ・モウ
クン な＝い

成り立ち

亡

人がものかげに〝かくれ〟ているすがたを表した字です。「かくれる」という意味の字です。〔例逃亡（トウボウ）〕。

人がかくれて、視界からなくなった、ということから「無くなる（ほろびる）」「無い」という意味に使われます。

〔例亡国、興亡、存亡、滅亡。

また、「亡くなる（死ぬ）」という意味にも使われます。

〔例死亡、亡父、亡母、亡霊、亡者。

〔同じ〝ない〟と読んでも、〝無〟は〝有〟に対する字であり、〝亡〟は〝存〟に対する字である。〝無〟は、単に物が無いことを表すが、〝亡〟は存在していた物が無くなってしまって無い、という場合に使う。〕

使い方

▽昔から世界の各地には色々な民族が興亡しました。もう滅亡してしまって、この世に存在しない民族もあります。世界史の本を読むと、さまざまな民族の興亡の様子がわかって大変おもしろいです。

▽つい最近死亡した○○さんは、大変お金が好きで、金の亡者だなどと言われていました。死んだ人を悪く言ってはいけないけれど、本当に金に汚い人でした。

熟語例

▽亡国（国がほろびること。また、ほろびた国）
▽興亡（興ることと、滅びること。）
▽存亡（生きながらえるか、滅びるか。「国の存亡のかかった一戦」などというふうに、つかいます。）
▽滅亡（滅びること。「祖国の滅亡により、○○○民族は各地に散って行った」などというふうに、つかいます。）
▽死亡（死ぬこと。）
▽亡父（死んだ父親）
▽亡霊（死んだ人の霊魂。幽霊）
▽亡者（死者。死んで迷っている者。また、何かにひどく執着している人のことを言います。）